

聖書箇所：ルカ：14：25～35

タイトル：「キリストの弟子として生きるために」

テーマ：イエス・キリストの弟子として従う道は、自分の十字架を負う道であり、犠牲を払う道である。イエスの真の弟子として従うようにイエスは招き、また弟子を選別される。どのように選別されるのか、イエスの求めておられる条件を考える。

初めに：

文脈から見れば、この箇所はイエスの公生涯の後期ユダヤ伝道の時期にあたり、イエスはエルサレムに向かおうとしておられる途上の箇所である。イエスは次第に迫りくる十字架の時を前にして、弟子たちを訓練しようとして、特に、イエスの弟子として従う者の心構えについて語られた箇所である。

イエスのあとには、たくさんの群衆がついてきたが、イエスは弟子として従うための条件を示して、真の弟子を選別していかれるのである。

今日は、次の順で語らせていただく。

1. 自分のいのちまでも憎む者（26節）
2. 自分の十字架を負ってイエスに従う者（27節）
3. 二つのたとえ（弟子の払うべき犠牲）
 - ①塔を築こうとする者（28～30節）
 - ②戦いを始めようとする者（31～32節）
4. 塩としての役目を果たすイエスの弟子
5. 結論、適用
 - * 「イエス・キリスト」を最優先して生きるか。
 - * 自分に与えられた十字架を「自発的」に負い、イエスが歩まれたように歩むか。
 - * 最後までやり遂げる覚悟と、すべてのものを捨ててもいとわない犠牲を払う覚悟があるか。
 - * 自分は「塩」であると自覚しているか。